# 令和 7 年度生薬学・天然物化学教科担当教員会議　議事録

日時：令和 7 年 9 月 13 日（土）16:50～17:50, 意見交換会（19:20～20:45）
形式：現地・オンライン（Zoom）のハイブリッド
会場：崇城大学薬学部　Q 号館 201 講義室
　　（日本生薬学会第 71 会年会　会場）
出席：現地参加者 61 名、オンライン参加者 31 名、合計-92 名
議題：　１．実物生薬、薬用植物園の講義・実習での活用について
　　２．漢方薬教科担当教員会議ワーキンググループの活動の中間報告

報告：
１．実物生薬、薬用植物園の講義・実習での活用について
1) 趣旨説明　代表世話人（永津明人　金城学院大学薬学部・日本生薬学会副会長）

2) アンケート実施方法と概要（代表世話人）
　実施方法：Google form を利用した項目入力と調査ファイルアップロード
　調査期間：令和 7 年 7 月 16 日～8 月 6 日
　調査対象数 81、回答数 69（回収率 85.2 %)
　※代表世話人より各大学に別途送付。学校名は原則、非公開。

3)アンケート調査結果の説明（代表世話人）と事例紹介
　◯アンケート詳細は参加者への配布資料に掲載（ここには一部を抜粋）
　・講義時の実物の生薬を利用　解説する生薬の全て又は大部分を回覧：22 校　半分程度：20 校
　・試験での生薬の利用　　実物を使って試験：４校　　画像・写真の利用：36 校
　・生薬の鑑別・評価の実習　実施している：65 校
　　実施している項目と生薬の種類（略）　　50 種以上の取り扱いが 12 校
　・学生の生薬を持たせている　全員に無償で：６校　希望者に無償で：1 校　実習期間中に：５校
　・生薬の利用で工夫している点（自由記述）
　　回覧のやり方で工夫・教材作成などの体験を通して触れさせる・標本の常設、など多数の回答
　・薬用植物園の所在地　　キャンパス内：56 校　　徒歩圏内：５校　　徒歩圏外：７校
　・薬用植物園の出入りの自由度　いつでも：37 校　時間内は自由：21 校　許可・届出が必要：8 校
　・講義での薬用植物園利用　　必修講義内で見学：48 校(必修講義外での見学の義務との併用含む)
　　必修講義外での見学の義務：12 校
　・学外の植物園の利用　　講義の一環で利用（必修又は選択）11 校
　　（利用の理由）ケシなどの規制植物の見学・学内の植物園では見られない植物の見学　など
　・試験での薬用植物の利用　　実物を使って試験：1 校　　画像・写真の利用：38 校
　・薬用植物園の利用で工夫している点（自由記述）
　　植物のスケッチをさせる・自力で植物を探させて覚えてもらう・地下部も掘り起こして見せる
　　など多数の回答

結果説明の途中で、実習で多くの種類の生薬を扱っている大学の事例、生薬教材作成などの体験型の講義している大学の事例、多数の学生の植物園見学の方法の事例、学外の植物園見学の実施例、規制植物を栽培している大学の事例、など参加者から多くの事例を報告していただいた。

２．漢方薬教科担当者会議設置ワーキンググループ(WG)の活動の中間報告

1) 趣旨説明　代表世話人

WG 設置までの経緯の概略説明と、令和 7 年度の薬学教育協議会総会において WG 設置についてと国家試験問題評価の試行を行ったことを報告したこと、その際の協議会での意見交換の状況について説明した。

2）WG 設置の背景の詳細説明と現在の活動状況の説明（WG 代表：小林　義典　北里大学薬学部）

・第 110 回薬剤師国家試験における漢方薬・生薬関連の問題の出題状況

・漢方薬教科担当者会議を設置した場合の参加の以降調査の結果

・第 110 回薬剤師国家試験における漢方薬・生薬関連の問題の各大学教員による評価の結果の説明

の各項目について説明があった。

3）学会内で行われるシンポジウムの概略説明と、そこでの議論やシンポジウム後にとるアンケートを今後の展開に役立てる旨の説明があった。

以上

2026(令和 8)年度の世話人：　　松浪　勝義 先生（広島大学大学院医系科学研究科）

matunami@hiroshima-u.ac.jp